

〈生きる視点プラス〉 参加者募集

好奇心を駆動して、自分の“生きる”をつかまえよう！

COデザインセンターがあなたに贈る五つの特異な経験

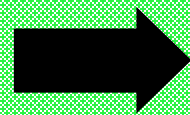
差別感情

無力さ

表現

一流

詳細は裏面へ



Finale



【事業趣旨】

この事業「生きる視点プラス」は、普段人目に触れることの少ない場所に出かけ、そこで暮らす人々と交流し、彼ら・彼女らの営みに触れることを通して、「生きる」ということについて視点を開くことを目指すものです。また、それらの経験を表現へと落とし込んでいくことで、ひとつの作品を作り上げていくことを目指します。わたしたちが出かける場所は、精神科デイケア、被災地、そして架空の物語の世界となります。**実施期間は1月から3月**となります。

対象者は大阪大学に所属する学生・院生全般です。日本語対応のみとなります。初回のオリエンテーションを**2018年1月16日、豊中キャンパス・懐徳堂スタジオ13:00~16:00**で行います。参加を希望する方はお集まりください。

【差別感情】

私たちは多かれ少なかれ差別感情を抱いています。何気なく暮らしていると、そのことに気づく機会はありません。差別感情が社会のなかで顕在化しやすいのは「精神障害」という領域です。大学生だと接することが少ないかもしれませんが、地域で暮らす精神障害のある人たちは増えています。あなた自身が病気になる可能性も否定できません（精神疾患は日本人の五大疾病のひとつです）。しかし、精神障害の実際を知らせて、差別や偏見を解消することを促すような活動はまだ多くありません。

そこで、この事業では精神科クリニックの協力を得て、精神障害のある人たちが日中に通うデイケアで一週間（うち三日）の研修を行います（**1月22 - 27日**）。この研修の狙いはふたつ。ひとつは自分のなかの差別感情に向き合ってみることで、おそらく、何らかの差別感情が湧いてくるとは思いますが、それがどういったものかを自分で確認してほしいと思います。二つ目は、差別や偏見を持たれやすい人々が社会のなかでどう生きているのか、生きていかなるを得ないのかを間近で見たいということです。

【無力さ】

自分のなかの差別感情に向き合ってみて、差別を受ける人々の生活に触れた後は、被災地に出かけます（**2月9 - 11日**）。宮城県石巻市、いまだ復興の途上にあるこの地域で、独自の地域精神医療のやり方を立ち上げた「からころステーション」で実習（スタッフのお手伝い）を行います。徐々に進む復興、ならされていく土地、がれきとなった学校、慰霊碑、縮小される仮設住宅といった光景を見つつ、そのなかで生き延びてきた人々の過去 - 現在 - 未来を見つめてほしいです。

ここで経験してほしいことは自分の無力さです。それが災害に対してなのか、実習においてなのかは問いません。自分の無力さを知るということは、他人の力を認め、他人から学ぶことでもあります。それが自分の在り方を根本から問い直す機会になり、新しい視野を獲得しようとする原動力となります。

【表現】

無力さを覚えた後は何かをしたい、新しい力を得たいと思いはじめるかもしれません。そうした一種の精神的飢餓状態をチャンスとみなして、表現力を養う実践に取り組みます。演出家・劇作家のオカモト國ヒコさんを講師に迎えて、ギャラクシー賞を受賞した『薔薇のある家』という脚本をもとに、時間をかけて稽古をしていきます（**1-3月、およそ40時間、稽古日時は参加者含め全体で調整します。**）。表現は頭だけでなく、身体や声、五感、感情をフルに使います。身体を使うことが少なくなっているわたしたちにとっては身体感覚が呼び覚まされる経験になるでしょう。

ここで目指すのは、架空の登場人物を掘り下げ、それにリアリティを与え、実際に存在するかのよう表現することです。短い練習時間ですが、身体と五感と頭を活用して自分の枠を超え、架空の他者の生きている視点にありありと立てるようになることを目指します。難しいことではありますが、オカモトさんが導いてくれます。精神科デイケアや被災地で見たもの・経験したことを注ぎ込むようにして稽古に励み、表現に取り組んでもらいたいと思います。

【一流】

一流の人の経験を聞きたい！彼女ら・彼らは徹底的に自分を鍛え、ほとんどの人には到達できないところまで行った人なのだから、その途方もない経験がわたしたちの好奇心をみたさないわけがありません。彼女ら・彼らが大学時代に何を学び、何を望み、何を意識し、社会に出た後でどのように自分の道を作っていたのかを聞かせていただきます。また、朗読劇の稽古にも一線で活躍されている方に参加していただき、演出家との高いレベルの稽古を見せていただきます。

※ゲストは現在交渉中です。

【Finale】

フィナーレです！この事業の締め括りです。しかし、この事業外の活動となります。いったい何が待っているのでしょうか？？？それは参加者のみにお知らせします！（3月、追って連絡）

【応募要領】

対象者は大阪大学に所属する学生・院生です。日本語のみの対応になります。参加希望者は**2018年1月15日**までに①氏名、②所属学部および研究科、③志望動機、④連絡先、⑤その他確認しておきたい事項を明記して、Oデザインセンター 特任講師：山森裕毅のアドレス yamamori@cscd.osaka-u.ac.jp に送ってください。（参加費なし。宮城県石巻市への旅費・宿泊費は大阪大学が出費します。応募者が多い場合は面接を行う可能性があります。）